

播磨まちかどニュース

With いなみ野学園

瓦版



兵庫県いなみ野学園では、大学院生などの受講生が自主制作として、地元ケーブルテレビ局「BAN-BANテレビ」と協働し、テレビ番組「播磨まちかどニュース With いなみ野学園」を制作しています。学園内外の魅力的な活動を映像で紹介する15分の番組です。瓦版では、これまでの配信動画の内容を紹介しています。

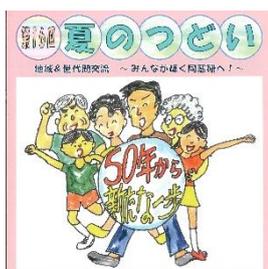
★★最新の配信動画★★

現在、いなみ野学園ホームページに掲載している動画をご紹介します。

播磨まちかどニュース with いなみ野学園 84

第16回 同窓研修会「夏のつどい」

◆配信日：令和6年10月1日◆



いなみ野学園同窓研修会の「夏のつどい」が令和6年8月24日(土)に開催。今年は「第16回目」を数え、「地域&世代間交流～みんなが輝く同窓研

へ！！～」をテーマに行われました。

今回のまちかどニュースは、兵庫大学現代ビジネス学科の学生3名（大西和積さん、石田真菜佳さん、尾崎香帆さん）がMCを務めてくれました。



9時開会。初めは主催者である金山實同窓研修会会長のあいさつから。今年度から会長に就任した金山会長自身、5月「総会」以降からずっと強い気持ちで「夏のつどい」に取り組んできて、あいさつにもその思いが伝わった気がします。

続いて、来賓として坂本哲也生きがい創造協会理事長兼いなみ野学園長のあいさつがありました。坂本学園長もこの春から学園にこられ、澆刺とした気持ちで学園運営に積極的に取り組まれています。

プログラムのオープニングは兵庫大学附属加古川幼稚園の園児たちの合唱でした。年中組74名の子どもたちが、舞台上で元気いっぱいの歌声を聴かせてくれました。子どもたちの歌声に、親御さんは勿論、おじいちゃん・おばあちゃんたちも「元気」をもらいました。口を大きく開けて、力いっぱいに歌う子どもたち、自然と大きな拍手がわきました。



それ以降は、いなみ野学園のサークルの仲間やボランティア活動グループの人たちの「演芸大会」でした。これまで練習を続けてきた成果を、大勢のみなさんの前で発表して、会場か

らは大きな拍手が沸きました。盆踊り愛好会のみなさんの踊りや太極拳サークルの演武、兵庫大学エクステンションカレッジ「クールアザレ」のトーンチャイム演奏と合唱、銭太鼓サークル、男声合唱DBB+1、兵庫県立農業高校ブラスバンド部の演奏、ひょっとこ踊り、南京玉すだれ、コーラスサークルなどなど、出演したみなさんが日ごろの成果を存分に発揮されていました。「やりきった！！」と言う満足感と達成感、それに応えて会場からの暖かいエール。互いがとてもいい雰囲気を作りながら、プログラムが進んで行きました。



去年、同窓研修会は「創立50周年」を迎え、半世紀を超えての51年目に。「夏のつどい」も16回を数え、先輩たちが築いてきた熱意をしっかりと受け、次につないでいかねばと、そんな強い思いが感じられました。

「夏のつどい」は、演芸発表だけではなくありません。絵や習字、写真や手芸など、サークル活動を通して、仲間と共に楽しみながら取り組んできた作品の発表もあります。展示部門は大教室が会場で、作品展示と併せて、「親子体験教室」も開かれていました。地域の中学校：平岡中学生の作品も一緒に展示され、「中学生となると、こんなにも上手に描けるようになるんだなあ」と、そんな感想も聞きました。



更には、「ちびっ子コーナー」があり、子どもたちが参加して楽しめるけん玉やマジック、囲碁・将棋の対局、レスキューロボットの操縦やお点前体験など、いろんな催しもありました。屋外では、日頃、カラオケで鳴らした声を思いっきり歌ってもらう「カラオケコーナー」もあり、大勢の方が美声を披露してくれました。



親子で、また、おじいちゃん・おばあちゃんの三世代で、今回の「夏のつどい」も、大勢のみなさんの参加で大いに盛り上がるものとなりました。幼稚園児の歌声から元気をもらい、県農のブラスバンド演奏では、さすが次のステップへ進むだけの実力があるなと痛感しました。(県農はその翌日、関西大会に出場して、見事「金賞」に輝きました)。そんな若い人たちも参加してくれ、3世代が一緒になって楽しむ、地域のみなさんも一緒に参加していただける「夏のつどい」は、これからもずっと続いて「地域&世代間交流」を図っていければと思います。

みんなで一緒に楽しめた「夏のつどい」、来年もまたこの場でみなさんと、「See you again!!」。とってもよかった今年の「夏のつどい」でした。

①いなみ野学園短期集中講座「藤原正美の話し方講座」

②大学院 2 年生スポーツ大会



◆配信日：令和6年10月16日◆

①「藤原正美の話し方講座」

「アエイウ エオアオ カケキク ケコカコ サセシス セソサソ・・・」、講師の先生に合わせて、口を大きくしっかり開けて大きな声で続きます。お腹に力を入れて腹式呼吸で声を出すのです。こんな感じで始まりました「藤原正美の話し方講座」が。

藤原正美さんは、みなさんもよくご存じのラジオ関西で長年パーソナリティーされている方で、現在は番組ディレクターもなさっています。その藤原正美さんによる3回シリーズの「話し方講座」。第2回目が9月17日（火）に、いなみ野学園地活3教室で行われました。2回目は、「文章の読み方・伝え方・フリートークの心得」がテーマの講座でした。



「背筋を伸ばして、白板の大きなOに向かってしっかりと口を開けて声を出すように」と。先生の指導の通りに、みなさん口を大きく開けてしっかりと声を出していました。

続いては、「早口言葉」です。「隣の客はよく柿食う客だ」、「ナマナマズ ナマナマコ ナマナメコ」、「マジ貧しい 魔術師」、「ニャンコ、子ニャンコ、孫ニャンコ」、「マグロ大使のママは マママグロ大使」などなど、早口でつまらずに言う練習です。一番言いにく

そうだったのが「アンドロメダ座だぞ」。これを早口で言うのは結構難しそうでした。

次は朗読、「家畜農家で発生した事件をお伝えします」の文の朗読です。先生は、「黙読をして意味をしっかりと捉えてください」、そして「どこで切ればいいか、声を出して自由に読んでください」、最後「心を込めて読みましょう」と指摘された後、しばらく練習がありました。

「ブタがぶたれました ぶったブタが ぶたれたブタをぶったので ぶたれたブタは ぶったブタを・・・」。これを受講生一人一人が前に出て朗読します。その後、先生からの注文が。「ニュースキャスターのように真剣な声で読んでみましょう」、「トーンを上げて高い声で読みましょう」などと。読み方を変えるとこれほど雰囲気が変わってくるのかと、その違いがよくわかりました。みなさん、初めと後ではずい分違っていましたからね。



先生の指導を受けながら、自分で声を出し、発表し合い、お互い同士で体験共有できた1時間半が、アツとの間に過ぎた気がしました。背筋を伸ばす、大きく口を開けて、心を込めて読む、それでこれほど変わるものかと思うほどでした。

②「大学院2年スポーツ大会」

続いて、9月18日（金）に行われました大学院2年生（18期生）の「スポーツ大会」の様をお伝えします。

いなみ野学園の大教室を会場に「第16回スポーツ大会」が開催されました。以前は、外でのグラウンドゴルフが競技種目だったところ、近年のこの暑さを考え、屋内での囲碁ボールとソフトダーツ（マグダーツ）に種目を変更しました。クーラーの効く中、雨の心配もなく、快適にスポーツ競技ができるのでとても好評でした。当日も暑い一日でしたから、尚一層実感できました。

10時、試合開始。最初に坂本学園長の始球式です。囲碁ボールの第一打を見事に決めて、大きな拍手がおこっていました。



大教室では、それぞれ2面ずつセットされ、一斉に8チームの対戦が始まりました。

囲碁ボールでは、一打ごとそれぞれのチームで一喜一憂しながら、大いに盛り上がっていました。また、ソフトダーツも、一投ごとに歓声が沸いたりして、こちらも同様にみなさんとても楽しそうでした。



試合後の得点集計は、審判が各チームのリーダーに、「これはセーフ、これはアウト」と説明しながら厳正に対処して、しっかりと得点集計がなされていました。

囲碁ボール、ソフトダーツを、各班ごと2対戦して、最終、両方の成績が加味された得点で、「優勝」を目指しました。

10時から始まった「スポーツ大会」も2時間余りを経過し、全ての対戦試合が無事終了。優勝1位は4班、第2位は8班、第3位5班の結果でした。



ひとときを大いに盛り上がって楽しい時間を共有できました。班のチームワークもこれまで以上に強くなったのではと思います。班の「絆」を更に深め、思い出に残る「スポーツ大会」となりました。

（ナレーション：大前 小夜子）

【いなみ野学園 動画配信ホームページ】

https://www.hyogo-ikigai.or.jp/ikigai/video/video_inamino_summary.html



《編集・発行》

いなみ野学園 ビデオ制作委員会（いなみ野学園大学院講座・研究生） ☎ 079-424-3342